事例No.	1989
公表年度	R4
団体の属性	中核市
団体名	宮崎県宮崎市

事例区分	DX

タグ	・人材確保・育成 ・ICT ・新たな政策手法の確立・活用

事例種類	地域活性化

事例内容・タイトル

海外の優秀な人材を高度デジタル人材として育成し、地域へ

出典

地域社会のデジタル化に係る参考事例集【第2.0版】

09 海外の優秀な人材を高度デジタル人材として育成し、地域へ【宮崎県宮崎市】

事業の概要

○　宮崎市では、地域で不足しているデジタル人材を確保するために、地域のIT企業や宮崎大学と連携して、自国で魅力ある働き口が足りないバングラデシュの高度デジタル人材を日本語学習させ、本市企業に就労させる「宮崎－バングラデシュ・モデル」を構築した。

○　現地で５ヶ月間基礎的な日本語・ITスキル・ビジネスマナーを学び、来日した後に、大学での日本語教育及び市内企業へのインターンシップを３ヶ月間実施する。教育費用は、彼らの採用を希望する地元IT企業が支援し、実際に採用された際は、市が一部補助する仕組み。



○　この仕組みによって、これまでに42人の高度デジタル人材が市内企業に就労した。
（令和4年5月現在）

【参考情報】 人口：40万人
関連URL：
https://www.city.miyazaki.miyazaki.jp/business/location/kougyou-link/1516.html（市HP）

もっと知りたい！　担当者にインタビュー


（総務省）

取組の経緯・きっかけを教えてください。


（宮崎市）

本市では、IT企業の誘致促進を図る上で、IT人材不足が大きな悩みでした。その切り札として、宮崎大学や市内企業等との産学官連携による高度外国人材の登用にチャレンジし、新たな地方創生の一手として大きな成果をもたらしております。



導入又は実証時において、国又は都道府県の支援制度（人的支援や技術提供、補助金等）を活用しましたか？



これまで本市の一般財源のみで取り組んでいます。



事業の近況を教えてください。



令和４年度からは、「産学官連携による高度人材の導入」から「産学官連携による地域活性化」へと事業をステップアップしています。
宮崎大学が中心となり、バングラデシュの若手ICT人材に対し、日本型ビジネスやビジネスマナー等の研修を行い、宮崎・日本との交流人材の育成を行うと共に、バングラデシュと宮崎の双方の産業界が、ICT分野を起点に経済・技術・人的な交流を深めるための体制構築に取り組んでいます。これらにより、バングラデシュと宮崎の間に継続的なヒト・モノ・カネの循環を生み出し、バングラデシュの経済開発・雇用促進及び宮崎の地域活性化に繋げます。（「宮崎－バングラデシュ・スタイル」と呼称）

★担当：宮崎市観光商工部 工業政策課★

令和3年度事業費　7,199千円